神様の愛を知るクリスマス

ヨハネの手紙　1　4章9節～11節

2021 年12 月 24 日
クリスマスイブ燭火礼拝

松田　基子　師

クリスマス、それは神の御子のイエスキリストが人となってこの世界に生まれて来られたことをお祝いする日です。

イエス様はこの世界に赤ちゃんとして生まれて来られました。それは皆に愛されるためでした。赤ちゃんを見ると人は皆愛さずにはいられなくなります。赤ちゃんは可愛いですね。赤ちゃんは大人の堅い心から愛を引き出してくれます。赤ちゃんはお乳やミルクで育つのではなく、愛で育つと言われます。人間の一生、それは自分を本当に愛してくれる本物の愛を求めて旅をしていると言われています。

実は神様も人間から愛されたいと愛を求めておられます。そもそも神様が人間をお造りになったのは、人間と愛を築くためでした。愛は一人では成り立ちません。愛を築いていく相手が必要です。そのために人間は造られました。そして神様は本当の愛を築こうとされました。しかし、本物の愛というのは自分を与えることです。すると人間は、「そんなの嫌だ、自分が一番、自分のために生きるのだ」と神様から離れてしまいました。

神様から離れた人間は本当の愛を知らない自分勝手な人間になってしまいました。ところがその道は永遠の滅びに繋がっていたのです。滅びの道へと歩む人間を一番悲しまれたのは神様でした。神様はそんな人間が本当の幸せを得るために、人間をもう一度神様に引き戻して、人間と本当の愛を築いて行きたいと思われました。そこで、人間が神様に心を向けるよう、神の御子をイエス様赤ちゃんとして、皆に愛される赤ちゃんとして、この世に誕生させられたのです。イエス様はヨセフとマリア、皆に愛されました。そしてイエス様は成長されると今度は皆に愛を与える人になられました。

誰からも顧みられることのない病気の人を癒し、皆につまはじきされた人の友達になり、冷たい心の人に愛の言葉をかけ、孤独の中にいる人に寄り添い、苦難の中にある人に希望を与え、イエス様は神の御子として神様の愛を与えられました。

ところで神様の本当の愛、究極の愛とはどういうものでしょうか。聖書の中のヨハネ第 1 の手紙 4 章 9 節 10 節にはこう記されています。**「神は独り子を世にお遣わしになりました。その方によって私たちが生きるようになるためです。私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛して、私たちの罪を贖ういけにえとして御子をお遣わしになりました。ここに愛があります。」**

さて、「その方によって生きるようになるた

めです」とはどういうことでしょうか。人間は皆、心の中には人を憎んだり、妬んだり、自分さえよければといった悪い心を持っています。実はそのことは、互いに愛し合い、正しく生きるように命を与えて、この世界に送り出してくださった神様に対する罪なのです。それは本人がどんなに良い行いをしても、帳消しになるようなものではありません。人間自身には救いの道は無いのです。そのために、全人類の価値に勝る神の御子が人間イエス様となって生まれてきてくださり、人間を愛して、その全ての罪を引き受けて身代わりとなって、十字架に架かられたのです。このことを贖いと言います。神様はイエス様の十字架の贖いによって、人間の罪を赦して下さり、その証明にイエス様を十字架の死から3日目に復活させられました。

人は誰もイエス様を通して罪赦され、天国に入ることが出来るようになりました。
イエス・キリストは全ての人を天国に招くために、クリスマスの夜に、この世界に生まれて来てくださいました。そしてその生涯は人々に本当の愛、即ち、神様の愛を与え尽くされました。神様は全ての人を愛しておられます。そして、人々の心が神様に向くことを求めておられます。人は誰も、神様に、イエス・キリストに心を向け、神様から、イエス様から愛されている自分に気が付く時、愛の人に変えられます。

クリスマスのこの日、私たちに独り子をお与え下さった神様の大きな愛を受けて、私たちも赤ちゃんイエス様を愛し、その心で隣人を愛し、愛を築いていく者とならせていただきましょう。

- お祈り -

私たちの命の与え主である神様、私たちを愛し真の幸せに導くために、クリスマスの夜に、神の御子イエス・キリストを誕生させてくださりありがとうございます。

イエス・キリストは私達を天国に入れるために身代わりの十字架に架かって下さいました。

この大きな愛に応えて私たちも隣人を愛するものとならせてください。
救い主イエス・キリストのお名前でお祈り致します。

アーメン